

## 90 第八高等学校校長 おおしまよしなが 大島義脩 — 名大をひきいた人びと③ —

名古屋大学旧教養部の前身にあたる旧制第八高等学校（八高）の初代校長大島義脩は、1871(明治4)年、丹波国氷上郡佐治村（現在の兵庫県丹波市）の豪農の四男として生まれました。

8歳で母の実家である大島家に養子に入り、判事であった叔父に養育された大島は、第三高等中学校から91年に帝国大学（現在の東京大学）に進学しました。高等中学校では数学の成績が抜群だったとのことですが、文科大学（文学部）哲学科を選び、カントやショーペンハウエルなどのドイツ哲学を学びました。同級生には、のちに著名な哲学者となる西田幾多郎などがいます。

文科大学を首席で卒業し、大学院で倫理学を研究した大島は、1897年には27歳の若さで第四高等学校（金沢）教授に任じられました。その後、文部省視学官、東京音楽学校教授を歴任、東京音楽学校校長として学校経営の経験も積みました。そして1908年、名古屋（当時は愛知郡呼続町）に新設された八高の校長に就任したのです。

37歳で就任したこの若き校長は、指導教官制度、公認下宿制度、事務組織の課長制度の導入や、創立10周年祝賀式の挙行、広大な講堂や娯楽施設としての茶寮の建設など、高等学校では初めての試みを次々に実行に移しました。これらは全国から注目され、多くの学校で取り入れられました。中でも、軍事教練と現役将校によるその検閲講評は、学校を厳格な心身鍛錬の道場と考える大島の創意によるものでした。

こうして大島校長は、八高の基礎をかためると同時に、次の校長の言葉を借りれば、「規律厳正の中に自己啓発の自由を残し、伝統を尚たつとばしめつつ新機軸を重んぜしめる」方針で10年間の学校経営をおこない、「勤勉八高」「教練八高」の異名にもなった独自の校風を確立したのです。

その後の大島は、女子学習院（現在の学習院女子大学）の初代院長、帝室博物館総長などを歴任しました。



1	2	3
4		

- 1 大島義脩（1871—1935）。写真は八高校長時代のもの（1916年）。
- 2 八高の軍事教練（戦闘演習）の様子（1915年発行の絵葉書より）。大島校長は、大学卒業直後の日清戦争期に一年志願兵となり、その後も勤務演習や日露戦争に召集されて、陸軍歩兵中尉の階級を持っていた。大島校長自らも熱心に教練の検閲にあたったという。
- 3 八高の鐘楼にかけられていた時鐘（口径38.0cm×総高51.5cm、名古屋市博物館所蔵）。八高創立当初からあり、学生や教員に始業や終業の時間を知らせた。
- 4 大島の銅像とともに撮影された1926年卒業生のクラス写真。大島が八高を去った直後から、同窓会で大島像建立の話が持ち上がった。まだ同窓生が少ない時代にもかかわらず、たちどころに建設費の寄付が集まり、1919年に完成した。このほかにも、大島像を背景にした記念写真が多く残っている。

名古屋大学基金

名古屋大学基金へのご寄附をお願い申し上げます。この基金は、平成18年3月に創設され、学生育英事業、教育・研究環境整備事業、国際交流事業などの充実のために活用されます。ご寄附のお申し込み、お問い合わせは秘書課（基金事務局）あて（電話 052-789-4993, 5759、Eメール kikin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp）をお願いいたします。

Nagoya University Archives

9 200900 007500